

頑張る

# 農業法人

「日本緑茶発祥の地」として知られ、宇治茶の主産地である宇治田原町で、府内最大規模となる集団茶園に入植した農事組合法人「日本緑茶宇治田原」。高齢化が進む産地での茶業振興・後継者育成を目指して、2010年2月に町内の茶農家11人で設立した。来年からいよいよ本格茶摘み、出荷を始め、府を代表する宇治茶のモデル茶園として期待されている。

い評価を得た。宗円翁の遺志は現代まで脈々と引き継がれ、全国で生産される煎茶における緑茶発祥の地としての地位を築いている。

一方同町では、高齢化が進み斜面での作業が難しく、緩斜面で乗用機械の使用による省力化、八十八夜に新茶を出荷でき、有利価格取引が期待できる早生品種の生産拡大が課題であった。

そのため1997年に同町と町内の茶農家で推進会議を組織し検討を重ね、地元の森林組合所有の山林19畝を切り開いて集団茶園を造成することとした。工事は07年から始まり、10年に完了し、「宗円の郷」と名付けられた。

この中で茶園14畝を集団管理・運営するのが農

## 農事組合法人 日本緑茶宇治田原 宇治田原町

### 来年から本格茶摘み



広大な集団茶園で茶栽培に取り組み、森田代表理事（前列中央）ら

事組合法人「日本緑茶宇治田原」だ。代表理事は森田木一さん(67)他、9人の理事と監事1人が運営に当たり、農繁期には町のシルバー人材センターや構成員の家族らを雇用する。構成員がそれぞれ能力

を發揮し、全員で力を合わせて運営に携わる。

法人設立直後の10年3月には、早生品種「鳳春」「あさのか」など6品種、約30万本の苗木が山田啓二京都市知事や当時の宇治田原町長も参加して定

### 市場は世界、次世代へ継承

入り、大勢が茶摘みを体験した。摘み取った新芽で煎茶を製造し、品質は上々だった。

来年春には乗用機械での本格収穫となり、JA全農京都茶市場への初市出荷を目指す。

今年4月には、同法人が21世紀の宇治茶生産の中核として次世代にわたって安定生産できるよう、郷之口地区で京力農場プランを策定した。年末には防霜ファンを設置、今後は製茶工場も建設を予定する。

森田代表理事は「世界遺産を目指す宇治茶を世界中の人に味わってもらいたい。宗円翁の心を引き継ぎ、宇治田原町の煎茶を次世代へ継承して緑茶発祥の地を守りたい」と意気込む。

▽法人所在地 綴喜郡宇治田原町大字立川小字宮ノ本22(事務局・J A京都やましろ宇治田原町支店)。電話 0774(88) 2034。